

宮古島市

美しい海と
豊富な地下水に恵まれた
活気あふれるまち

面積——204.39km²
人口——55,547人(平成19年4月30日現在)
市鳥——サシバ
市花——ブーゲンビレア
市花木——デイゴ
市木——ガジュマル
市魚——グルクン(タカサゴ)
市蝶——オオゴマダラ
市貝——スズカイ

美しい自然と多彩な芸能に彩られた宮古島の中心



宮古島は沖縄本島から南西に約287kmの位置にあり、宮古島市は、平成17年10月1日に平良市・下地町・城辺町・上野村・伊良部町の5市町村が合併して誕生しました。

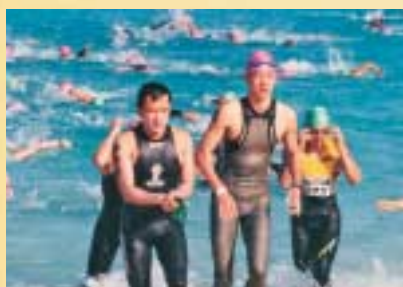
隆起珊瑚礁でできた平坦な地形は、台風時でも土砂が海へ流出しないこ

とから、世界屈指の美しさを誇る海やパウダー状の質の良い砂浜ができたといわれています。

離島の中でも歴史的・民族的に貴重なものが多く、数多く残る祭りや史跡も個性に富んでいます。

自然を生かした多彩なスポーツ・芸能的なイベント

世界でも抜群の透明度を誇る美しい海は世界中のダイバーを魅了して



います。下地島の「通り池」や「魔王の宮殿」は特に人気の高いポイント。

与那覇湾の干潟を舞台に宮古馬の競争や宮古角力(すもう)など多くの催しが行われる「サニツ浜カーニバル」は、人気の高い祭りです。

国内外から多くのアスリートが集まる「全日本トライアスロン大会」をはじめ、プロ野球のキャンプ地としても知られています。

献上布からギネス認定の塩までバラエティ豊かな特産品

約400年の歴史を誇る伝統工芸「宮古上布」は、琉球王朝時代には薩摩や江戸への献上布として使われていました。水どころとしても知られる宮古は泡盛づくりでも有名。7つの酒造所が存在します。この他、美しい海でとれる海ぶどうやモズク、マンゴーなどのトロピカルフルーツ、黒糖、宮古牛などが特産品として挙げられます。また、ギネスに認定された世界最多のミネラル分を含む「雪塩」も新しい特産品として人気です。



豊かな流れで人々の暮らしを潤していた崎田川



崎田川

宮古島市下地の

民謡とわらべうたで巡る	監修 ● 仲宗根幸市 イラスト ● 本原健至
ふるさと唄紀行	

県内各地に残る民謡やわらべうたは、懐かしい風景や当時の暮らしぶりを伝えてくれます。
うちな〜の唄が誘う地域の旅へ、まじゅん行かな(さあ出かけまじょう)！

豊富な水量で人々の暮らしを支えた「崎田川」を称える唄

崎田川は宮古島市下地にある宮古島唯一の川です。川幅は二〜三mで、源流付近は今では緑地公園になっています。その豊富な水量、水の清らかさをたたえて作られたのがこの唄です。

清らかな水が湧き出る崎田川は、多くの人々の喉を潤し、水浴びや洗濯、炊事などの生活用水として利用されてきました。また昔から涼を取ったり、子どもたちが水遊びをする場として人々に親しまれてきました。この唄は、元々は「崎田川のおやぐ」と呼ばれていたものが省略され、「崎田川」になったとされています。あやぐとは宮古の唄の総称です。現在では、「崎」を「酒」にもじり、飲んでも減らない縁起の良い酒をたたえる唄として、宴席で好んで唄われています。

宮古には、酒飲みの父親に酒を買って来るようにいわれた孝行息子が、崎田川の水を汲んで父親に渡したところ、いつの間にかその水が酒に変わっていたという民話が残されています。酒がぜいたく品だった時代、宮古島は特に人頭税という重い税制に苦しめられて

いました。貧しさの中で「崎田川の水がもしもお酒だったら」という人々の願いが民話となったようです。それが、いつしかこの唄の意味合いを変化させたといわれています。

崎田川の河口には県の史跡文化財である石造りの橋「池田砦(いけだばし)」があります。「雍正旧記」では二五〇年の歴史があるとされ、言い伝えによると日本最古の橋ともいわれています。

- 一、崎田川の水だき いでさざり水だき いらやぐみうが如ん
 - 二、下から湧き上り 上から湧りや添い いらやぐみうが如ん
 - 三、飲みばまい減ならん 汲みばまい凹まん いらやぐみうが如ん
 - 四、湧上がりのお願い わり添いのお願い いらやぐみうが如ん
- (標準語訳)
一、崎田川の水のように、湧き上がってくる水のように(尊い神様のようにな)

- 二、下からは湧き上がり、上からは盛りそそぎ
- 三、飲んでも減らず、汲んでも減ることはありません
- 四、どうぞ、湧き上がってくださいどうぞ、盛り上がってくださいお願いです

出典「琉球列島・島うた紀行」仲宗根幸市編著